

第6学年 国語科学習指導案

- 1 単元 学習したことを生かして「海の命」 (立松 和平 作)
「今、君たちに伝えたいこと」 (小澤 征爾 作)
「生きる」 (谷川 俊太郎 作)

2 学習指導の考え方

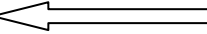
このような子どもたちだから	
<p>本学年の子どもたちは、「カレーライス」「森へ」「やまなし」の3つの教材から人物のものの見方や考え方、生き方を読み取る学習をしてきている。その学習を通して、題名のはたらきを読む、文章構成の工夫を読む読み方を知り、それを少しずつ使うことができるようになってきている。また、作者が作品にこめたメッセージを自分はどのように受けとめるのかについても、自分の受けとめ方を簡単に書きまとめることができるようになってきている。ただ、それは学習活動の一つとしてとらえられており、自分の生き方や考え方を見直すために読むという意識は、まだ希薄である。</p>	
このような教材で	このような指導・支援を行いながら
<p>本単元は「海の命」「今、君たちに伝えたいこと」「生きる」の3つの教材文から構成されている。どの教材も「生き方」という共通点をもっており、子どもたちが生き方を考えるという目的をもって3つの教材文を読み、自分の考えを広げたり深めたりしていくことができる単元構成となっている。</p> <p>○ 「海の命」は目標としていた父を失った太一が、与吉じいさや母とのかかわりの中で漁師としての生き方を模索し、命のつながりの中で海と調和して生きる漁師として成長していく姿を描いた物語である。卒業を前にした子どもたちが自分の姿を太一に投影し、太一の成長から自分の成長をすることができる教材である。</p> <p>こうした特質を踏まえて、本教材で習得・活用する主な読み方を次のように考えた。</p> <p>(活) 中心となる文やことばを読む 村一番の漁師とはどんな漁師か、あり続けたとはどういう意味か考え、太一の生き方を読む。</p> <p>(習) 人物設定の工夫を読む 太一の家族の様子が書かれている意図を考え、太一の生き方を読む。</p> <p>(習) 題名のはたらきを読む 作者が伝えたい太一の生き方を題名が象徴していることを読む。</p> <p>○ 「今、君たちに伝えたいこと」は国際的な指揮者である小澤征爾さんが、自分の生き方を振り返り、夢を追って生きることやそのために大切なことについて講演した記録である。これから夢を実現しようとする子どもたちが夢を追いかけて生きるとはどういうことかについて考えることができる教材である。</p> <p>○ 「生きる」は日々の当たり前の中にある「生きているということ」を5つの連のまとまりで表現した作品である。前の2つの教材文から読み取ったことをもとに「生きるということ」について子どもが自分なりの考えをまとめることができる教材である。</p>	<p>○ つかむ段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元学習の導入で将来の職業や夢について話し合い、単元学習の目的をもたせる。 ・ 既習学習で読み取った題名のはたらきを想起させて題名を読み、冒頭での太一の姿とつないで太一の生き方に焦点をあてた読みのめあてを生み出させる。 ・ 太一の生き方を感じる叙述を中心に文章構成をとらえさせ、読みのめあての答えを書きまとめさせる。 ・ 小集団での交流を通して、自分の考えを付加修正させる。 <p>○ 深める段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「村一番の漁師」「本当の一人前の漁師」「村一番の漁師であり続けた」の叙述の意味を、太一を巡る人々とかかわりの中で考えさせていくことで、太一の漁師としての生き方を読み確かめさせる。 <p>○ まとめる段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「海の命」から読み取った太一の生き方についての自分の受けとめ方を書きまとめさせた上で、「今、君たちに伝えたいこと」からは生きることの広がりや、「生きる」からは日々の生活の中にある生きることを読み取らせる。 ・ 3つの教材文から読み取ったことをもとに生きることについての自分の考えをもたせ、それを交流させることで、考えを深めさせる。
このような目標を設定して学習指導を展開します	
<p>○ 海の命や家族を大切にしながら生きていった主人公太一の生き方を読み取り、「今、君たちに伝えたいこと」「生きる」から読み取った生き方についての考え方をつないで、生き方についての自分の見方・考え方を広げたり深めたりすることができる。</p> <p>○ 「題名のはたらきを読む」読みアイテムや「中心となる文やことばを読む・文章構成の工夫を読む」読みアイテムを活用しながら、「人物設定の工夫を読む」読みアイテムを習得することができる。</p>	

3 学習指導計画と評価規準（全 15 時間）

		評価規準		ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力
				<ul style="list-style-type: none"> 3つの文章の内容を的確に把握しながら読み、生きるとはどういうことかについての自分の考えを表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 太一の心情や考え方などを太一をとりまく人物たちとのかかわりの中でとらえ、太一の漁師としての生き方について自分の考えをまとめている。 他の図書資料を読んで考えたことを発表し合い、生き方について自分の考えを広げたり深めたりしている。
過程	配時	主な学習活動 (◎は見通す活動と見直す活動)		単位時間ごとの具体的な評価規準 数字は見通す活動・見直す活動での評価規準 ()は評価方法	
つかむ	1 ／ 15	1 将来の職業についての夢について話し合う。 2 単元名から、今までの学習で身につけた読み方を使って読み、伝えあい、自分の考えを広げたり深めたりしていくことを確かめる。		① 学習を通して、生きるとはどういうことかを考えるという目的を意識している。 (プリント)	
	2 ／ 15	1 題名の「海の命」について話し合う。 ◎ 今までの物語文の学習でどんな読み方を身に付け、何を読み取ってきたのかについて話し合う。 2 冒頭から物語の舞台設定や太一の人物像について自分の考えをもつ。		(活) 助詞を読む 「の」に込められた意味を考え「海の命」海に生きる命について自分の考えをもつ。 (活) 文末を読む 「漁師になる。海に出るんだ。」の文末に込められた太一の決意や父へのあこがれを読み取る。	
	3 ／ 15 (4組本時)	1 冒頭の読みを話し合う。 ◎ グループで自分の読みとその根拠について話し合う。 (1) 太一の人物像について話し合う。 (2) 父の漁師としての生き方を話し合う。 ◎ 題名と冒頭から読み取ったことをつないで読みのめあてをつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 読みのめあて 生きる目標であった父をなくした太一は、これから漁師としてどのように生きていくのだろう。 </div>		① 父を目標とする太一の姿と漁師としてのプライドを大切にして死んだ父の生き方をつないで自分の疑問を生み出し、読みのめあてをつくっている。 (プリント)	
	4 ／ 15	1 読みのめあてにそって全文を読み通す。 ◎ 場面構成をとらえる。 2 太一の漁師としての生き方がわかる叙述を場面ごとにおさえる。 ◎ 読みのめあての答えとその根拠を書きまとめる。		(活) 人物・時・場所を読む 時間を表す言葉をもとに、太一の漁師としての行動をつかむ。 ② 村一番の漁師というキーワードを自分なりに叙述をもとに解釈し、太一の漁師としての生き方を書きまとめている。 (プリント)	

	<p>5 / 15</p>	<p>1 読みのめあての答えを話し合う。 ◎ グループで、自分の考えとその根拠を話し合う。 (1) それぞれの考えとその根拠を発表し合い、共通点や相違点をはっきりさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(予想される読みのめあての答え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 村一番の技術を持った漁師 ・ 与吉じいさの教えを守って、海の命を大切にする漁師 ・ 父をこえる漁師 </div> <p>2 話し合いの結果、はっきりしないことやわからないことをもとに読み確かめていく計画を立てる。 ◎ 自分の考えを付加修正し、読み確かめていくことをはっきりさせる。</p>		<p>③ 自分の考えを具体的に付加修正し、何を読み確かめていくかについて書きまとめている。(プリント)</p>
<p>深める</p>	<p>6 / 15</p>	<p>1 漁師としての太一の生き方について書き込みの視点をつくる。 ◎ 与吉じいさの言う「村一番の漁師」と太一が考える「本当の一人前の漁師」の手がかりとなる叙述とその読み方についてグループで話し合う。 2 話し合ったことから、叙述をもとに書き込みの視点をはっきりさせて書き込む。 ◎ 書き込んだことをもとに、自分の考えと根拠を書きまとめる。</p>	<p>② 既習の読み方を活用して、太一の生き方についての自分の考えをつくっている(プリント)</p>	<p>(活) 人物の見方を相互に比べて読む 「海のめぐみだからなあ」という父の漁師としての考え方と死に方、「千匹に一匹でいいんだ」という与吉じいさの考え方と生き方を比べて読む。 ④ 海の恵みをもたらって生きる漁師としての生き方と父を超えるもぐり漁師としての生き方について考えを書きまとめている。(プリント)</p>
	<p>7 / 15</p>	<p>1 書き込みをもとに、話し合いの視点を明確にする。 ◎ 自分の考えをもとにグループで話し合い、付加修正する。 2 自分の読みを伝え合い、太一の生き方について考える。 (1) 「千匹に一匹でいいんだ」「ずっとこの海で生きていける」という与吉じいさの言葉の意味を考え、村一番の漁師とはどんな漁師かを話し合う。 (2) 「村一番のもぐり漁師だった父を破った瀬の主」「この魚をとらなければ」「泣きそうになりながら思う」の叙述に込められた太一の思いを考え、太一が考える「本当の一人前の漁師」とはどんな漁師かを話し合う。 ◎ 自分の考えの広がりや深まりと根拠となった叙述についてグループで確認する。 3 深まった自分の考えを書きまとめる。</p>	<p>⑤ 太一がクエを打たなかったことで、父をこえるもぐり漁師としての生き方ではなく、海のめぐみをもたらって生きる漁師としての生き方を選んだことについて、考えを書きまとめている。(プリント)</p>	<p>(活) 場面をつないで読む 大魚の様子と父が重なって、クエを「おとう」と呼び、それまでの考え方を変えて、クエをうたなかった太一の変化を読む。 ⑤ 太一がクエを打たなかったことで、父をこえるもぐり漁師としての生き方ではなく、海のめぐみをもたらって生きる漁師としての生き方を選んだことについて、考えを書きまとめている。(プリント)</p>

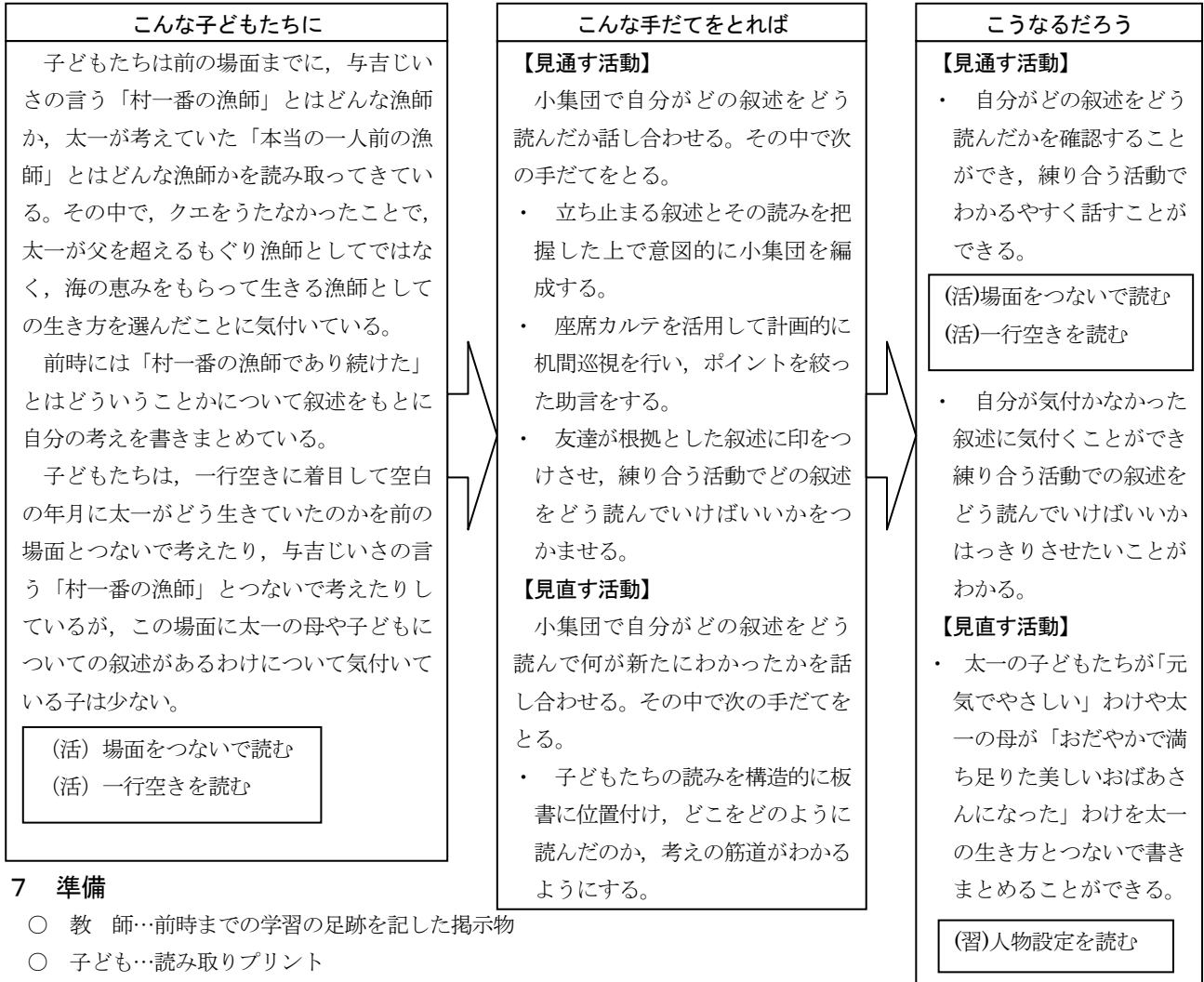
8 / 15	<p>1 「村一番の漁師であり続けた」太一の生き方について書き込みの視点をつくる。</p> <p>◎ 「村一番の漁師であり続けた」とは、漁師としてどのように生きていたのかの为抓手となる叙述とその読み方についてグループで話し合う。</p> <p>2 話し合ったことから、叙述をもとに書き込みの視点をはっきりさせて書き込む。</p> <p>◎ 書き込んだことをもとに、自分の考えと根拠を書きまとめる。</p>	←	<p>(活) 一行空きを読む</p> <p>クエをうとうとした後、何十年もの時間があり、その間太一が漁師として、努力し続けたことを読む。</p> <p>⑥ 一行空きの太一の姿や村一番の漁師であり続けたことについての自分の考えを書きまとめている。(プリント)</p>
9 / 15 (1組本時)	<p>1 書き込みをもとに、話し合いの視点を明確にする。</p> <p>◎ 自分の考えをもとにグループで話し合い、付加修正する。</p> <p>2 自分の読みを伝え合い、太一の生き方について考える。</p> <p>(1) 与吉じいさの言う「村一番の漁師」太一があり続けた「村一番の漁師」とのつながりについて話し合う。</p> <p>(2) 一行空きで表された年月を太一がどのように生きてきたのか話し合う。</p> <p>(3) 太一の家族について話し合う。</p> <p>◎ 自分の考えの広がりや深まりと根拠となった叙述についてグループで確認する。</p> <p>3 深まった自分の考えを書きまとめる。</p>	←	<p>(習) 人物設定を読む</p> <p>「元気でやさしい子どもたち」「母はおだやかで満ち足りた美しいおばあさんになった」</p> <p>太一の家族の様子が書かれている意図を考え、母の姿の変化とつないで太一が自分の周りに生きている人たち、海に生かされている命をも大切にしていることを読む。</p> <p>(活) 一行空きを読む</p> <p>家族の書かれ方とつないで太一が漁師としてはもちろんのこと、息子として、夫として、父親として努力し続けたことを読む。</p> <p>⑦ 太一が村一番の漁師であり続けたことと太一の生き方とをつないで書きまとめている。(プリント)</p>
まとめる	<p>10 / 15</p> <p>1 題名にもどり、太一の生き方について話し合う。</p> <p>◎ 読み取ったことをもとに読みのめあての答えを話し合う。</p> <p>(1) 「海の命」にこめられた意味と太一の漁師としての生き方について話し合う。</p> <p>(2) 話し合ったことをもとに太一の生き方に対する自分の考えを書きまとめる。</p>	<p>③ これまでの学習をふり振り返りながら、太一の生き方に対する自分の考えをつくっている。(プリント)</p>	<p>⑧ 読み取ったことを为抓手として、作者が伝えたかった太一の「村一番の漁師」としての生き方についての自分の考えを書きまとめている。(プリント)</p>
<p>(読みのまとめの方向)</p> <p>太一は自分がとらわれていた夢を乗り越え、より価値のある生き方を見つけそれを守り続けた漁師として生きた。また、海のつながりの中で生きる、命を大切にする生き方を守り続け、やがて海の命として海に帰っていく漁師、家族を養い、幸せにする漁師として生き続けた。</p>			
	<p>2 本単元で習得・活用した読みアイテムをふり返る。</p> <p>◎ 学習でどんな読み方を使ったかについてグループで話し合う。</p> <p>(1) グループでの話し合いをもとに全体で読み方について確認する。</p> <p>(2) 自分の読み方について振り返る。</p>		<p>⑨ 夢を追って生きることやそのために感じ、考え努力することの大切さについて自分の考えを書きまとめている。(プリント)</p>

11 / 15	<p>1 題名「今、君たちに伝えたいこと」について話し合う。</p> <p>◎ 「海の命」で読み取った生き方についての考えをもとに「今、君たちに伝えたいこと」を読み、どの叙述をどう読めばいいかについてグループで話し合う。</p> <p>2 話し合ったことをもとに自分の考えを書きまとめる。</p>		
12 / 15	<p>1 書き込みをもとに、話し合いの視点を明確にする。</p> <p>◎ 自分の書き込みをもとにグループで話し合い、付加修正する。</p> <p>2 夢を追って生きることやそのために大切なことについて話し合う。</p> <p>◎ 自分の考えの広がりや深まりと、根拠になった叙述について、グループで確認する。</p> <p>3 小澤征爾さんの生き方に対する自分の考えを書きまとめる。</p>		<p>⑩ 小澤征爾さんの生き方に対する自分の考えを書きまとめている。(プリント)</p>
<p>(読みの方向)</p> <p>生きるということは、自分が夢中で打ち込める何かを見つけ、それを続けていくことだ。自分なりに感じ、考え、思い切りぶつかっていけば、自分がやりたいことが見つかる。</p>			
13 . 14 / 15	<p>1 題名「生きる」について話し合う。</p> <p>◎ 「海の命」「今、君たちに伝えたいこと」で読み取った生き方についての考えをもとに「生きる」を読み、どの叙述をどう読めばいいかについてグループで話し合う。</p> <p>2 話し合ったことをもとに自分の考えを書きまとめる。</p> <p>1 書き込みをもとに、話し合いの視点を明確にする。</p> <p>◎ 自分の書き込みをもとにグループで話し合い、付加修正する。</p> <p>2 「今生きているということ」について話し合う。</p> <p>(1) 1～4連に書かれている「今生きているということ」について話し合う。</p> <p>(2) 5連に書かれていることと1連の最後に書かれている「あなたと手をつなぐこと」をつないで、「生きるということ」について話し合う。</p> <p>◎ 自分の考えの広がりや深まりと、根拠になった叙述について、グループで確認する。</p> <p>3 谷川俊太郎さんの「生きているということ」に対する自分の考えを書きまとめる。</p>		<p>(活) 文章構成を読む</p> <p>それぞれの連が表している「生きているということ」の特徴をつかみながら読む。</p> <p>それぞれの連を「生きているということ／今生きているということ」で始めている意図を読む。</p> <p>⑪ 毎日の生活の中にある生きているということの価値や人を愛するということが生きることだという谷川さんの考えに対する自分の考えを書きまとめている。(プリント)</p>
<p>(読みのまとめの方向)</p> <p>当たり前を送っている毎日の生活の中に大切なもの、美しいものがかくれている。生きるということは特別なことではなく、日々の生活に美しいもの、大切なものを感じ、人を愛し、いのちを感じてくらししていくことだ。</p>			
15 / 15	<p>1. 生きることについての考えを伝え合う。</p> <p>2 自分の考えの深まりを振り返り、書きまとめる。</p>	<p>④ 今まで学習してきたことを振り返りながら、自分の考えをつくっている。(プリント)</p>	<p>⑫ 3つの教材文から読み取ったことを引用しながら、生きるとはどういうことかについての自分の考えの広がりや深まりを書きまとめている。(プリント)</p>

5 本時の目標

- 「村一番の漁師であり続けた」とは、太一が漁師としてどのように生きていたことなのかを読み取り、漁師としての父の生き方を超え、海に生きるものの命も海で生きるものの命も大切にす漁師として生き続けたことに気付くことができる。
- 「一行空きを読む」読みアイテムを活用しながら、「人物設定を読む」読みアイテムを習得することができる。

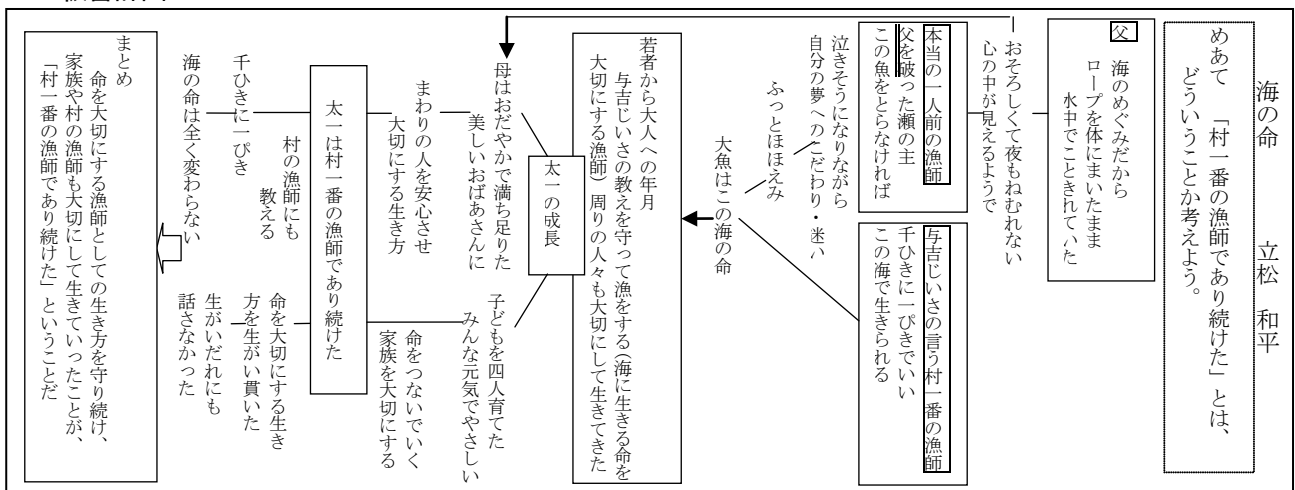
6 本時の授業仮説





7 準備

- 教 師…前時までの学習の足跡を記した揭示物
- 子ども…読み取りプリント

8 板書計画



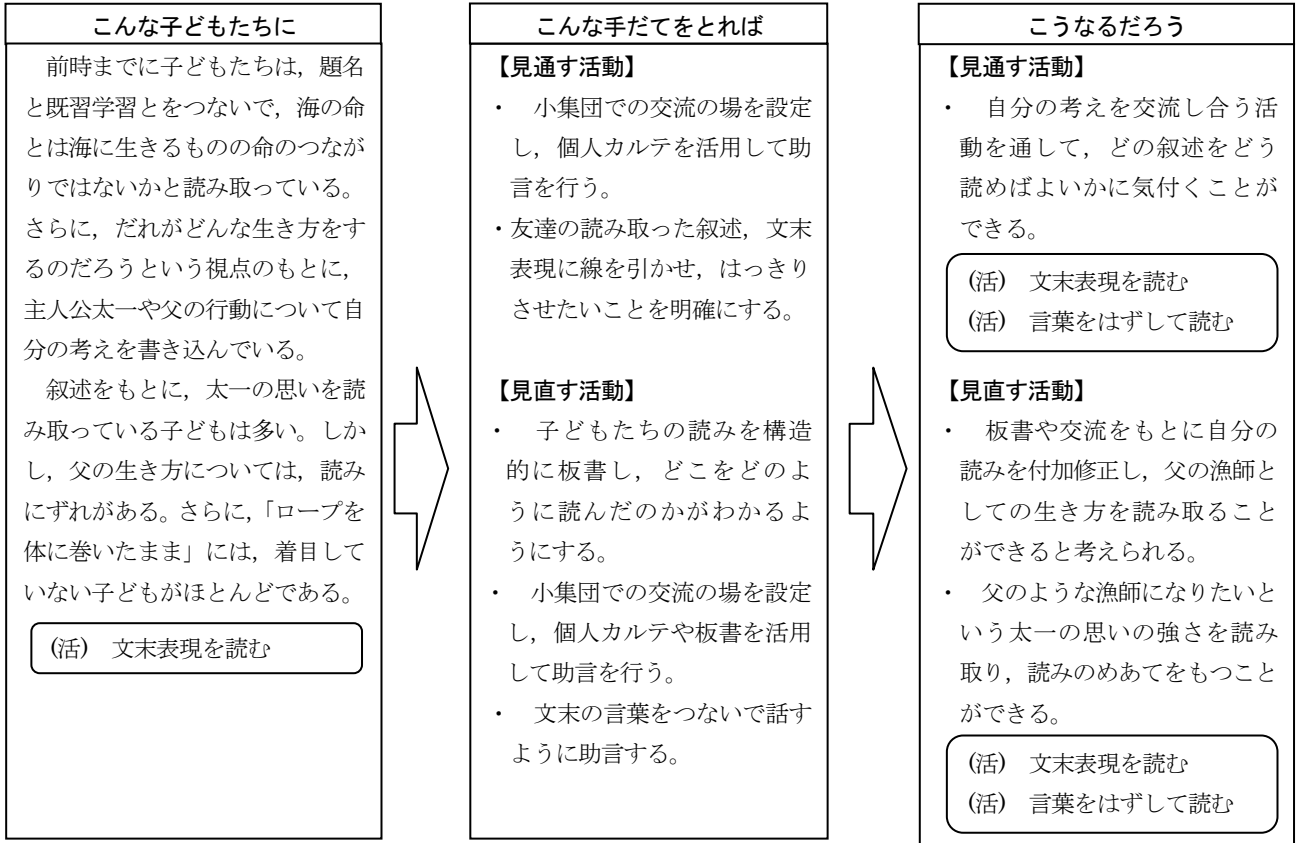
9 本時の展開

学習活動と内容	指導・支援(☆は習得, ★は活用)
<p>1 本時の学習のめあてを確認する。</p> <p>(1) 本時のめあてをつかむ。</p> <div data-bbox="204 315 1355 394" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて 「村一番の漁師であり続けた」とはどういうことか考えよう。</p> </div> <p>(2) 見通す活動を行う。</p> <div data-bbox="177 443 775 790" style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p>【見通す活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの叙述をどう読んだか発表し合う。 ・ 自分が気付いていなかった叙述に青鉛筆で線を引く。 <div data-bbox="188 618 256 689" style="float: left; margin-right: 10px;">  </div> <div data-bbox="272 589 746 757" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくは、「村一番の漁師」と「村一番の漁師であり続けた」とどう違うのかを考えたよ。 ・ 一行空きの間は考えていなかったな </div> </div> <p>2 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>(1) 与吉じいさの言う「村一番の漁師」と太一があり続けた「村一番の漁師」とのつながりについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 太一が与吉じいさのように命を大切にする漁師として生き続けたこと <p>(2) 一行空きで表された年月を太一がどのように生きてきたのかについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 結婚して子どもが生まれるくらい長い年月、命を大切にする漁師として努力し続けたこと <p>(3) 太一の家族について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちがみんな元気でやさしい子どもたちであるわけ ○ 母がおだやかで満ち足りた美しいおばあさんになったわけ <p>3 自分の考えをまとめる。</p> <p>(1) 見直す活動を行う。</p> <div data-bbox="161 1487 759 1901" style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p>【見直す活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの叙述をどう読んだか発表し合う。 ・ そこから新しく何がわかったか発表し合う。 <div data-bbox="177 1709 245 1780" style="float: left; margin-right: 10px;">  </div> <div data-bbox="261 1630 715 1877" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一行空きのところと太一の家族の様子を読んだよ。 ・ 太一は海に生きているものも家族も大切にする漁師としてずっとがんばったから村一番の漁師であり続けたんだね。 </div> </div> <p>(2) 話し合ったことをもとに今日の学習を振り返り、自分の考えを書きまとめる。</p>	<p>○ 学習の流れを提示し、どんな順序で何をしていけばいいのかについておおまかにつかませる。</p> <div data-bbox="810 443 1409 757" style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立ち止まる叙述とその読みを把握した上で意図的に小集団を編成する。 ・ 座席カルテを活用して計画的に机間巡視を行い、ポイントを絞った助言をする。 <div data-bbox="847 622 1209 723" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ★ 場面をつないで読む ★ 一行空きを読む </div> </div> <div data-bbox="810 790 1433 981" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ★ 場面と場面をつないで読む 父のような生き方ではなく、与吉じいさの言う「村一番の漁師」としての生き方を太一が続けていたことを読み取る。 </div> <div data-bbox="810 992 1433 1182" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ★ 一行空きを読む クエをうとうとした場面から10年以上の年月がたっていて、その間も太一が漁師として努力し続けたことを読み取る。 </div> <div data-bbox="810 1193 1433 1328" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 人物設定を読む 太一の子どもたちや母の書かれ方から、太一が家族も大切にして生きてきたことを読み取る。 </div> <p>○ 太一の父の生き方と比べさせることで、太一が選んだ漁師としての生き方が家族の姿につながったことに気付かせる。</p> <p>○ 村一番の漁師であり続けたことと家族の姿をつないで考えさせることで、家族を大切に考えて漁をする生き方が村一番であり続けたことにつながることに気付かせる。</p> <div data-bbox="810 1574 1409 1821" style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの読みを構造的に板書に位置付け、どこをどのように読んだのか考えの筋道がわかるようにする。 <div data-bbox="847 1731 1270 1776" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 人物設定を読む </div> </div> <p>○ 話し合った後で、代表の子どもに板書を使ってどこをどう読んで何がわかったのかを話させることで、どの子どもも自分の考えを書きまとめられるようにする。</p>

5 本時の目標

- 冒頭から、父にあこがれをもって漁師になろうとしている太一の思いや、漁師としてのプライドをもった父の生き方を読み取ることができる。
- 「言葉をはずして読む・文末を読む」読みアイテムを活用しながら、読みのめあてをつくることができる。

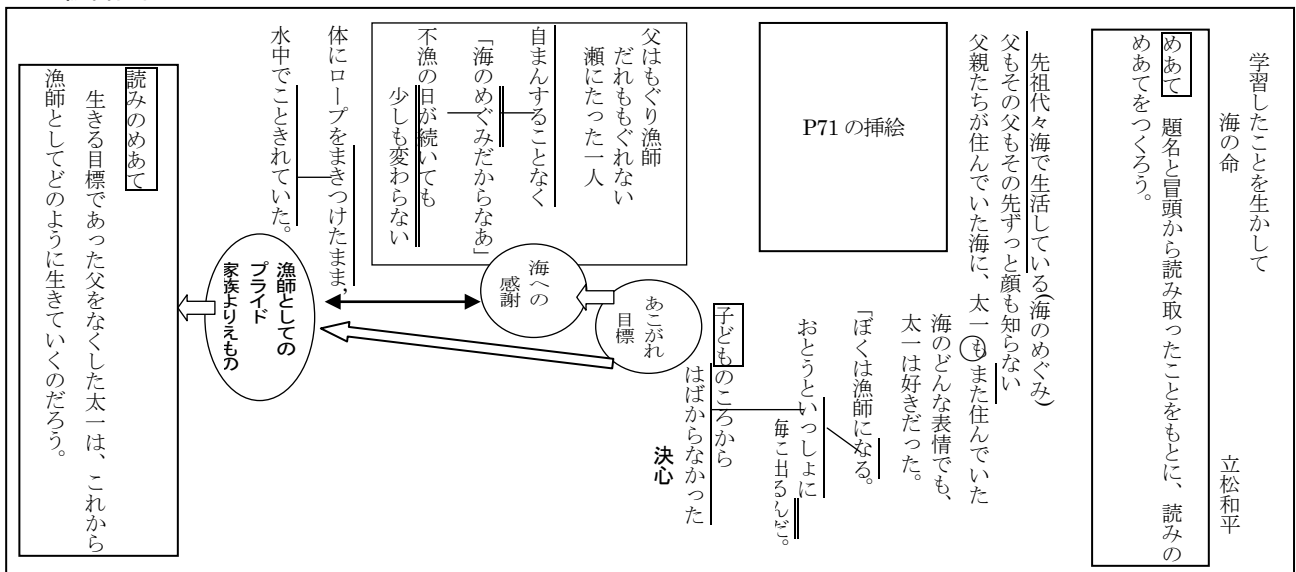
6 本時の授業仮説





7 準備

- 教師…一人一人の考えを把握したカルテ
- 子ども…読み取りプリント

8 板書計画



9 本時の展開

学習活動と内容	指導・支援(☆は習得, ★は活用)
<p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>(1) めあてを確かめる。</p> <div data-bbox="204 315 1391 392" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて 題名と冒頭から読み取ったことをもとに、読みのめあてをつくろう。</p> </div> <p>(2) 見通す活動を行う。</p> <div data-bbox="177 421 775 741" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【見通す活動】 自分の書きこみをもとに、読みの根拠と叙述を話し合う。</p> <div data-bbox="188 584 268 674" style="float: left; margin-right: 10px;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「おとうといっしょに海に出るんだ」と書かれているから、太一は父の生き方にあこがれ、漁師になることを決定しているんだと思いました。 ・ 「子どものころから」なので、漁師になる夢をもち続けていると思います。 </div> <p>2 書きこみをもとに話し合い、読みのめあてをつくる。</p> <p>(1) 太一についてわかることを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「漁師になる」から、漁師になることは太一の中で決まっている ○ 「出るんだ」から、おとうのような漁師になりたい ○ おとうにあこがれている <p>(2) 父についてわかることを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「だれももぐれない海にもぐれる」から、漁がとても上手な人 ○ 自分の腕を自慢することなく、海から与えられたと考えているけんきよな人 ○ 与えてもらうものだから、不漁の日が続いても、少しも変わらない人 ○ 大物を前にして、漁師としてのプライドを大切にしていまい、死んでしまった人 ○ 家族より大物をとることを選んだ人 <p>(3) 題名とつなぐ。</p> <p>(4) 読みのめあてをつくる。</p> <div data-bbox="177 1384 775 1482" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>生きる目標であった父をなくした太一は、これから漁師としてどのように生きていくのだろう。</p> </div>	<p>指導・支援(☆は習得, ★は活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「どこから」「何を」読み取ったのか、短く話すようにさせる。 ○ 友達の読み取った叙述や「～なる」「～だ」「はばからなかった」などの文末表現に線を引かせ、練り合う活動ではっきりさせたいことを明らかにさせる。 ○ カルテをもとに、計画的に机間指導をする。 <div data-bbox="863 712 1182 808" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ★ 文末表現を読む ★ 言葉ははずして読む </div> <div data-bbox="810 869 1433 1016" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ★ 文末表現を読む 「漁師になる」を「なりたい」に代えて読むことで、太一の育った環境や漁師に対する思いを読み取らせる。 </div> <div data-bbox="810 1032 1433 1180" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ★ 言葉ははずして読む 「少しも」をはずして読むことで、父の漁師としての生き方を読み取らせる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「海めぐみ」という言葉を、「水中でこときれていた」とつないで、父が家族より漁師としてのプライドを優先した結果死んでしまったことに気付かせる。 ○ 冒頭で読み取ったことと題名をつなぎ、父を目標としていた太一のこれからの生き方について、自分なりの読みのめあてをつくらせる。
<p>3 本時学習をふり返り、まとめる。</p> <p>(1) 見直す活動を行う。</p> <div data-bbox="177 1585 775 1951" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【見直す活動】 話し合いを通して分かったことを小集団で話し合い自分の読みに付加修正する。</p> <div data-bbox="188 1742 268 1832" style="float: left; margin-right: 10px;">  </div> <p>父がローブを体に巻いたままこときれていたところから、父としての生き方よりも漁師としてのプライドを大切にしてしまった生き方があらわれていることが分かりました。太一のこれからの生き方を読んでいきたいです。</p> </div> <p>(2) 見直す活動で話し合ったことをもとに、「今日の学習で」を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見通す活動や全体での話し合いで、線だけを引いていた叙述から、何が分かったかを話すようにする。 ○ うまく発言ができない子どもには、板書を示しながら「～なる」「～だ」「はばからなかった」などの叙述をつなぐと、どんなことが分かるかを再度問い、太一の思いの強さに気付かせる。 ○ 話し合った後で、代表の子どもに板書を使ってどこをどう読んで何が分かったのかを話させることで、どの子どもも自分の考えを書きまとめられるようにする。